

年度 2009 学期 後期	曜日・校時 木1	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	生物の科学(動物の行動) Biological Sciences (Introduction to Behavioral Biology)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 自然科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:岡田二郎 /Eメールアドレス:jokada@nagasaki-u.ac.jp /研究室:環境科学部 158-1 室 TEL:095-819-2762 /オフィスアワー:月～金 12:05～12:50			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>授業のねらい:動物の行動は実に多種多様であるが、それぞれが個体の生命維持、繁殖、社会性維持などの生物学的意義を含んでいる。行動をつかさどるメカニズム(生理)は、先天的に適応的に設計されていると同時に、個体の発生とともに後天的に発達していく側面ももつ。本講義では、これらのトピックについて典型例をあげながら概説することで、動物行動に関する知識と理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業方法:おもにPCプロジェクトを用いた通常の講義形式でおこなう。授業内容を記した資料を配布する。</p> <p>授業到達目標:動物の行動について、生態学、生理学などの様々な側面から説明することができる。</p>			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>授業内容(概要)</p> <p>動物の行動について、まず様々な事例をあげながら生態学的見地から解説する。続いて行動のメカニズムについて、環境の受容から行動の発現と調節へいたるプロセスを生理学的見地から平易に説明する。最後に行動の個体発生(発達と学習)およびその進化について解説する。</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回 生命維持の行動 第3回 繁殖行動 第4回 社会行動 第5回 行動と脳神経系 第6回 環境の受容(1) 第7回 環境の受容(2) 第8回 行動の発現と調節(1) 第9回 行動の発現と調節(2) 第10回 行動の発達(1) 第11回 行動の発達(2) 第12回 学習(1) 第13回 学習(2) 第14回 行動の進化 第15回 まとめと総括(試験を含む)</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書は用いない。教材は適宜配布する資料。 参考書:行動生物学(小原著、培風館、1997)、動物行動学入門(スレーター著、日高・百瀬訳、岩波書店、1988)、ニューロンの生物学(デルコミン著、小倉・富永訳、南江堂、2000)		
成績評価の方法・基準等	定期試験(60%)と授業に対する積極的取り組み(40%)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			